



受け継がれ、進化する「予防医療」

「人民に健康法を説いて身体の大切さを知らせ、病を未然に防ぐのが医道の基本である」
慶應義塾大学初代医学部長・病院長を務めた北里柴三郎博士は『医道論』にそう記した。
その言葉通り、慶應義塾は医学部創立時から「予防」の重要性を認識し、社会への普及を目指してきた。
今回は、慶應義塾大学予防医療センターの麻布台ヒルズへの拡張移転（2023年11月）を期して
あらためて慶應義塾の予防医療の歴史をひもといてみる。

師から受け継いだ 「健康」維持への思い

「予防医療」とは病を未然に防ぐ「健康」な人を対象とした医療を指す。医学用語として「健康」という言葉を最初に使ったのは、幕末の蘭学者・緒方洪庵とされている。大坂・



信濃町キャンパスに掲げられている福澤諭吉と北里柴三郎の肖像

適塾で洪庵に師事した福澤諭吉は明治以降、その言葉の普及に大きな役割を果たした。1866（慶応2）年に出版した著書『西洋事情初編』で初めて「健康」という言葉を使い、その後もベストセラーとなった『学問のすゝめ』をはじめとする著書で「健康」を多用。文明開化の流れの中に福澤は日本人の日常に「健

康」の大切さを浸透させた。

福澤自身も自らの健康維持に余念がなく、居合、米搗き、散歩という日課を欠かさなかった。子どもの養育については「先ず獣身を成して後に、人心を養え」と説き、自身の子どもたちには上等な衣服よりも滋養のあるものを食べさせることを優先させている。明治以前の日本人がほとんど口にできなかった牛肉や牛乳を栄養・健康面での客観的な裏付けをもって普及させたのも福澤で、さら

「予防医療」先導者としての 福澤諭吉と北里柴三郎

ドイツ留学中に破傷風菌の純粋培養や血清療法の開発で世界的な名声

を博した北里柴三郎博士。1892（明治25）年に帰国後、福澤は北里博士の伝染病研究に協力や助言を惜しまなかった。北里は福澤の恩に報いるべく、慶應義塾大学医学部の設立に尽力。初代医学部長・病院長を務め、福澤の死後もその発展に力を注いだ。福澤と北里は医療における「予防」を重視する点で一致した考えを持っていた。北里の演説原稿をまとめた『医道論』には病は未然に防ぐべきものであると記されており、「摂生は本にして治療は末なり」と訴えて、日本の公衆衛生の向上と普及に多大な貢献をした。

現在も信濃町キャンパスの一角にあるレトロムード漂う予防医学校舎は1929年の竣工。この校舎には予防医学、公衆衛生学、寄生虫学の



(左) 予防医学校舎

(右) 予防医学校舎に残る焼夷弾の痕

各教室が設置されたが、北里博士の信念でもあった予防医学を標榜した教室は国内初で、医学の将来を見据えた試みだった。北里博士はこの予防医学教室を誇りに思っていたと伝えられる。

予防医学校舎を命がけて守った人々

予防医学校舎敷地内に、現在も六角形の焼夷弾の痕が残っているのをご存じだろうか。1945年5月24日未明の空襲時のものと考えられ、当時は主要な建物が木造だったため、医学部・病院は総建坪の約3分の2を焼失した。上空から無数の焼夷弾が降る中、看護師を中心に重症症合わせて180名の入院患者全員を無事に退避させ、学生たちは鉄筋コンクリート造りの予防医学校舎や北里記念医学図書館の屋上で焼夷弾を消しては投げ捨て、建物を守った。当時の医師、看護師、学生たちのこうした命がけの奮闘のおかげで現存する予防医学校舎。古いながらも独特の威厳を放つその存在感は、慶應義塾の医学教育・研究が大切にしてきたものを言外に物語っている。

一人一人の人生と共に歩む「未来型予防医療」を目指す

病気の有無を調べる「検診」は予防医療の手段の一つ。慶應義塾大学病院の検診の歴史は1966年開設の財団法人慶應がんセンターによるがん検診から始まり、4年後には財団法人慶應健康相談センターを設立し、人間ドックもスタートさせた。2012年には大学病院内に「予防医療センター」を開設。2023年11月、同センターはさらなる予防医療の発展を目指し、麻布台ヒルズに拡張移転し、予約枠の拡大や最新医療機器の導入など医療サービスの質向上を図っている。

大学病院がある信濃町キャンパスから今回「街」へ出ていく決断をした大きな理由は、Green & Wellnessの二つを柱に「Modern Urban Village」をコンセプトに掲げる「麻布台ヒルズ」が、慶應義塾が目指す未来型予防医療の舞台にふさわしいことだった。今後、慶應義塾と麻布台ヒルズプロジェクトを展開する森ビル株式会社のパートナーシップに



麻布台ヒルズ外観

より、予防医療センターを中心にフィットネスクラブや飲食店などとも連携して、街全体で一人一人の健康をサポートしていく。また慶應義塾と森ビルによる共同研究講座を開設。多様なライフステージにおける健康課題を把握し、ウェルネス、ウェルビーイングに関する研究成果を広く社会に還元していくことにより、予防医療のさらなる学際的な発展を図る。麻布台ヒルズという新たなステージを得て、慶應義塾の予防医療への情熱は、世紀を超えて次の100年に受け継がれていく。